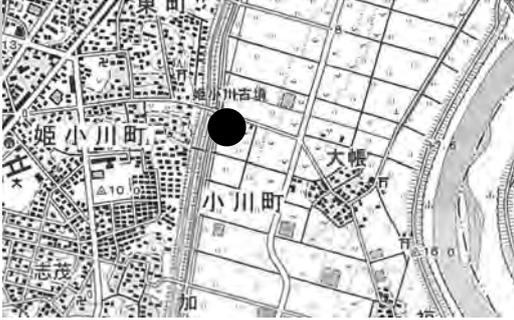


ひめした  
**姫下遺跡** (本発掘調査B)

**所在地** 安城市姫小川町・東町・小川町地内  
 (北緯34度54分52秒 東経137度05分48秒)  
**調査理由** 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)  
**調査期間** 令和6年10月  
**調査面積** 187㎡  
**担当者** 堀木真美子・河嶋優輝



調査地点(1/2.5万「安城」)

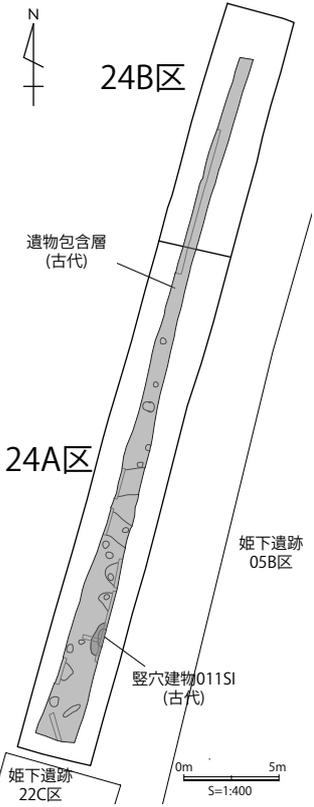
**調査の経過** 調査は、愛知県建設局知立建設事務所河川整備課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。当遺跡は平成17年度から調査を開始し、今年度が第7次の調査となる。今年度の調査区は市道部分にあたり、南は姫下遺跡2022年度調査区と接し、東にはやや間隔を開け姫下遺跡2005年度調査区が位置する。今年度は調査区を南から24A・24Bの2区に分割して調査を実施し、調査面積は計187㎡である。

**立地と環境** 遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、遺跡群の南群に位置する。東側の05B区では竪穴建物跡群および旧流路が確認され、今年度調査範囲は旧流路の北側にあたる。

**調査の概要** 調査では、おおよそ全面にわたって土師器、須恵器、灰釉陶器が含まれる遺物包含層が検出され、その下層では土坑群のほか、溝2条、竪穴建物1棟が確認された。各遺構からの出土遺物は乏しいものの、層序から古代以前の遺構と考えられる。

**竪穴建物跡** 竪穴建物011SIは、南北長約1.8m、東西長0.6m以上の隅丸方形プランを持つ。幅約0.2~0.5mの周溝を持ち、柱穴は確認できない。遺構埋土から土師器片が出土しており、古墳時代から古代にかけての遺構と推定される。

**まとめ** 今年度調査区については、東側の05B区で展開していた竪穴建物群が確認できなかった。包含層からの出土遺物も乏しく、集落の縁辺部としての性格が想定される。(河嶋優輝)



姫下遺跡 24年度調査 主要遺構図  
 S=1/400



姫下遺跡 24A 区全景 (北より)



姫下遺跡 竪穴建物 011SI 完掘状況 (西より)